

POINT REPORT 2009

第59期 年次報告書 2008.3.1~2009.2.28

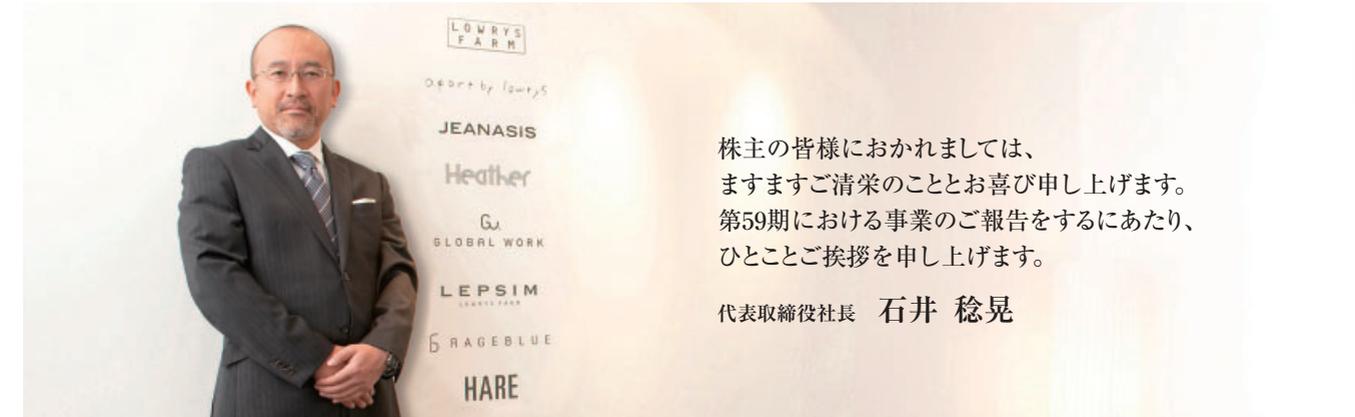
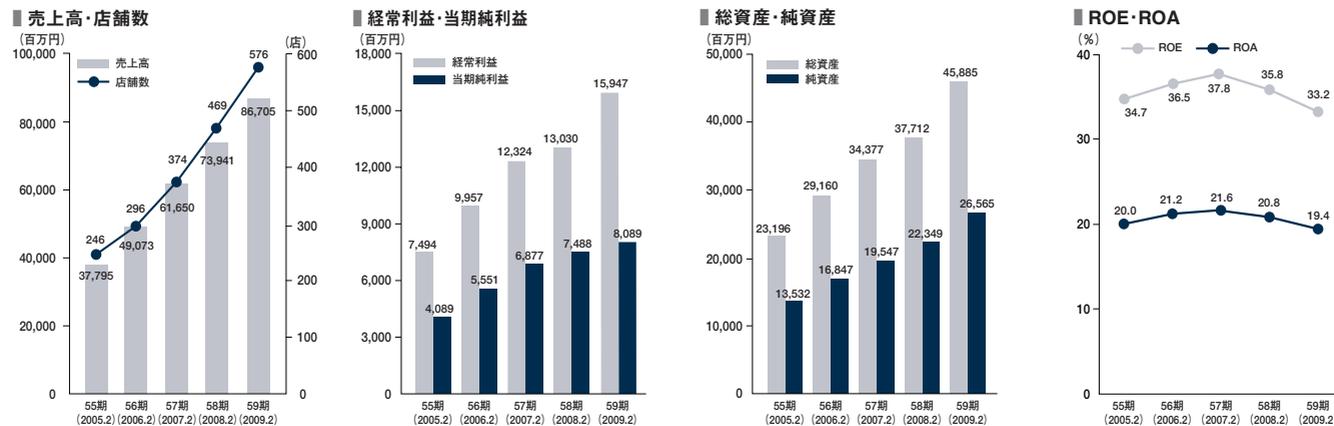
point

株式会社ポイント
〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階
Tel. 03-3243-6011 Fax. 03-3243-6022
<http://www.point.co.jp/>

point

		55期 (2005年2月)	56期 (2006年2月)	57期 (2007年2月)	58期 (2008年2月)	59期 (2009年2月)
売上高	(百万円)	37,795	49,073	61,650	73,941	86,705
経常利益	(百万円)	7,494	9,957	12,324	13,030	15,947
当期純利益	(百万円)	4,089	5,551	6,877	7,488	8,089
総資産	(百万円)	23,196	29,160	34,377	37,712	45,885
純資産	(百万円)	13,532	16,847	19,547	22,349	26,565
店舗数	(店)	246	296	374	469	576
1株当たり当期純利益(EPS) (円)		156.71	216.22	270.25	298.92	328.89
1株当たり純資産額(BPS) (円)		523.50	659.17	775.00	900.95	1,086.09
総資産当期純利益率(ROA) (%)		20.0	21.2	21.6	20.8	19.4
自己資本利益率(ROE) (%)		34.7	36.5	37.8	35.8	33.2

※2004年4月に1:1.2、2004年8月に1:1.5の株式分割を実施しております。



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第59期における事業のご報告をするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

代表取締役社長 石井 稔晃

当社グループは、「ビジネスモデルの展開と企業力強化」をテーマとする中期経営計画(TOP9)において、「複数ブランドの開発と育成による業容拡大と経営安定化」を戦略の要に据え、様々な取り組みを実行してまいりました。計画の最終年度にあたる当期は、世界的な金融危機が国内の実体経済へ影響を及ぼし、当社グループが属するカジュアルウェア市場においても、天候不順の影響に加え、景気の悪化による生活防衛意識の高まりなどから個人消費は低迷が続いています。

このような環境の中で、売上面では、成長期にあるレブシムローリーズファームを中心とした戦略的な新規出店の実施や、ジーナシスがローリーズファーム、グローバルワークに続く売上高100億円を超えるブランドへ成長するなど、複数ブランドによる業容の拡大を図ることができました。収益面では、売上総利益率を60.5%と引き続き高水準で維持するとともに、販売費及び一般管理費の戦略的なコントロールを行いました。その結果、当期の連結業績は売上高867億5百万円(前期比17.3%増)、経常利益159億47百万円(同22.4%増)、当期純利益80億89百万円(同8.0%増)と、10期連続の増収増益を達成するとともに、TOP9における最終目標を超過達成することができました。

当社グループを取り巻く事業環境は、個人消費の動向が不安定な中、

外資系企業の日本進出、改正まちづくり三法に伴う郊外での大型商業施設開発の規制による出店環境の変化など厳しさを増すものと考えられます。当社グループは、このように競争が激化するファッションカジュアル市場において、世界のメジャープレイヤーに負けない「リーディングカンパニー」へと成長することを目指し、新たな中期経営計画である「Take Off Point 2010-2012(TOP12)」を策定しました。TOP12においては、TOP9で確立したブランドポートフォリオを強固にすべく、各ブランドの成長を継続するとともに、将来の永続的成長に向けて、ブランド価値向上やビジネスモデル強化のための投資を積極的に実施してまいります。そして、当社のDNA(遺伝子)である「ファッションカジュアル」「ストアブランド」「マルチブランド」「スピード経営」のさらなる進化・継承によってブランド力・組織力の強化を図り、着実な成長を目指します。

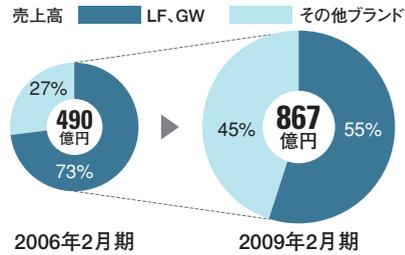
当期は、中間40円、期末60円、年間で100円の配当とし、前期より20円の増配といたしました。また、約424千株の自己株式の取得を実施いたしました。今後も株主の皆様へ末永く株式を保有いただけるよう、国内での新たなマーケットや、海外マーケットへの展開を順次進めることで企業価値の一層の向上を図ってまいります。引き続きご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

当社は、2012年2月期(第62期)を最終年度とする新中期経営計画「Take Off Point 2010-2012(TOP12)」を策定しました。前計画である「TOP9」の成果を検証するとともに「TOP12」の具体的な取り組み内容をご説明いたします。

「TOP9」 Theme:ビジネスモデルの展開と企業力強化

Strategy 1 複数ブランドの開発育成による業容拡大と経営安定化

Result 1 ローリーズファーム(LF)、グローバルワーク(GW)に続くブランドが大きく躍進しました。



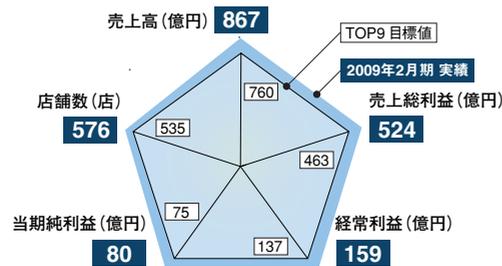
Strategy 3 成長継続のための人材力・組織力強化

Result 3 人材力・組織力の強化を積極的に実施しました。

- 次世代幹部育成プログラムの実施
- 営業本部の組織再編
- 営業人事の新設
- 出店数拡大に伴い新規採用の積極化・前倒し採用実施

Strategy 2 ブランド定着による収益力の維持・向上

Result 2 ブランド力の維持と新業態の早期拡大で目標を超過達成しました。



Strategy 4 コーポレート・ガバナンスの整備と確立

Result 4 コーポレート・ガバナンスの整備は着実に進展しました。

- 内部統制プロセスの強化
- 社外取締役の招聘
- 経営諮問委員会の設置
- 外部人材の採用による組織力強化

新中期経営計画「TOP12」 Vision:ファッションカジュアル市場におけるリーディングカンパニーとなる

基本方針

- TOP9で確立したブランドポートフォリオを強固にすべく、各ブランドの成長を継続します。
- 将来の永続的成長に向けて、ブランド価値向上やビジネスモデル強化のための投資を積極的に実施します。

Strategy 1 既存ブランドの成長と変革による業容拡大

- 主カブランドであるローリーズファームのNEWラインによる変革と拡大
- 成長期ブランドをダウンタウン中心に戦略的出店(ジーナシス、レブシムローリーズファーム、ヘザー、アパートバイローリーズ)
- 出店戦略の多様化(コレクトポイント・旗艦店・複合店)

Strategy 3 将来の成長に向けて新たなマーケットの開拓

- 新ブランドの立上げ
- 中国マーケットへの展開開始(香港・上海)

Strategy 2 ビジネスモデルの強化による永続的成長

- 商品企画機能の強化(品質のさらなる向上・原価コントロール)
- 戦略的広告宣伝の展開
- 店頭販売力強化(エリアマネージャーによるOJT・店舗作業の効率化)
- 物流機能の拡充

Strategy 4 積極的な人材投資による組織力強化

- 社員の処遇改善を反映した報酬制度の充実
- ブランド間異動・社内公募による活性化
- 積極的な採用や社員登用の継続

数値目標

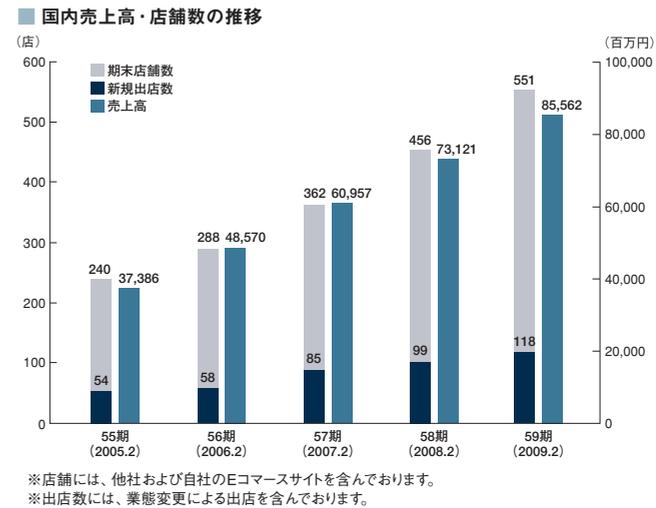


成長期ブランドを中心に積極的な出店を行いました。

当期の売上高は、前期比17.3%増の867億5百万円となり、期初に掲げた計画を上回る成果を残すことができました。

当期は、2007年11月の改正まちづくり三法の全面施行を受けて、郊外型ショッピングセンター(SC)の開業がピークを迎えました。当社もSCへの出店を継続し、成長期にあるレプシムローリーズファームの33店舗(うち業態変更3店舗)を中心に新規出店を行いました。また、新たな顧客へのアプローチとして商圏の小さな近隣型ショッピングセンター(NSC)向けに開発した新ブランドのインメルカートは、好調な立ち上がりを見せ9店舗の出店を行いました。その結果、国内では118店舗の出店(うち業態変更6店舗)、23店舗の退店(同6店舗)となり、当期末時点での国内店舗数は551店舗となりました。この結果、国内全店売上高は前期比117.0%となりました。

また、ローリーズファーム20店舗(国内)を中心に、国内合計で36店舗の改装を実施し、既存店の活性化に努めました。国内既存店売上高は前期比97.9%と、計画値である97.6%を上回りました。

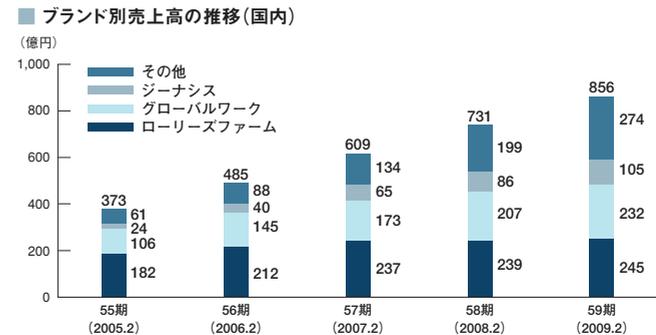


ジーナシスが売上高100億円を超えるブランドに成長しました。

国内においては、ローリーズファームが245億円と高水準の売上を維持するとともに、グローバルワークは16店舗を出店し232億円の実績を残すなど、堅調に推移しました。

また、ジーナシスが105億円と当社3つ目の年商100億円を超えるブランドに成長したほか、ヘザー、アパートバイローリーズ、レプシムローリーズファームも大きく伸長し、これら4ブランドの構成比は28.2%と、前期に比べ6.0ポイント上昇しました。

特にレプシムローリーズファームは、33店舗(うち業態変更3店舗)の積極的な出店を行ったこともあり、売上高が59億円(前期比215.4%増)と、大きな成長を遂げました。



複合大型店舗出店へのチャレンジをはじめました。

2008年11月、当社はすでに展開している複数の店舗ブランドを組み合わせた新型の複合店である「コレクトポイント」の第1号店を、愛知県のイオンモール岡崎に出店しました。お客様に高い利便性と商品選びの楽しさを提供できるほか、店舗運営の効率化を図ることが可能になると期待されます。

さらに、2009年4月には、原宿の一等地に約300坪と、当社最大の店舗であるコレクトポイント原宿店を出店しました。コレクトポイント原宿店では、都心型人気ブランドであるローリーズファーム、アパートバイローリーズ、レイジブルー、ジーナシス、ヘザー、ハレ、そして新ブランドであるトランスコンチネンツを展開。当社初の大型旗艦店として、当社の考えるファッションを発信してまいります。



コレクトポイント岡崎店

collect point

「コレクトポイント原宿店」4月24日オープン

所在地：東京都渋谷区神宮前6丁目12番20号
交通：地下鉄「明治神宮前」駅より徒歩1分、JR「原宿」駅より徒歩5分
店舗面積：990㎡(約300坪)
1階：ローリーズファーム、アパートバイローリーズ、レイジブルー
2階：ジーナシス、ヘザー、ハレ、トランスコンチネンツ



店舗外観



1階

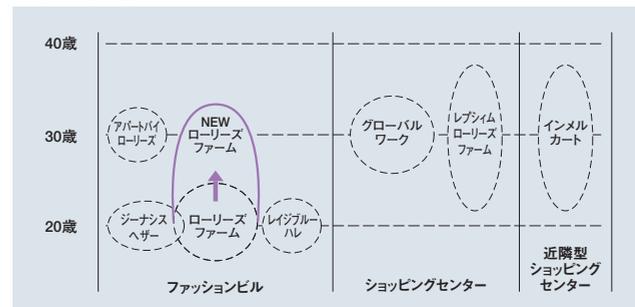


2階

ローリーズファームのブランド力強化を図りました。

当社の主力ブランドであるローリーズファームは、当期は期末店舗数116店、年間売上高245億円となり、引き続き業績に大きく寄与しています。この実績に満足することなく、さらなる成長を図るために、当期はデザインやパターンなど商品企画に精通した人材を活用し、ローリーズファームに素材・デザイン・品質を向上させた新しいラインを追加しました。今後はデザイン・パターン機能など商品企画に対するノウハウを自社内に蓄積し、従来のローリーズファームをご支持いただいたお客様だけでなく、さらに上質なものを求める世代のお客様へもターゲットを広げることを目指してまいります。

■ フォーカスセグメント



トランスコンチネンツをスタートしました。

2009年2月、新ブランド「トランスコンチネンツ」の第1号店を神奈川県ラゾーナ川崎プラザに出店しました。

「VINTAGE & NATURAL」をベースコンセプトに、都会に住むリアルな生活者に向けて、高感度なモード・カジュアルをスタイリッシュに提案するカップリングストアとして展開します。素材にもこだわり、一部を除き国産素材と国内縫製により品質を高めるとともに、アウター、インナー、ボトムスから雑貨まで、トータルでのコーディネート提案してまいります。当期は同じく2月に第2号店を新宿 マルイ カレンに出店し、スタートから日は浅いものの両店ともご好評をいただいています。来期は都心部のファッションビルや、駅ビルを中心に5店舗を出店する計画で、新ブランドとしての知名度の向上・定着を図り、着実なブランド展開を進めてまいります。



トランスコンチネンツ ラゾーナ川崎店

TRANS CONTINENTS

香港での事業展開が好調に推移しました。

当社は、2007年12月に香港に現地法人を設立し、2008年3月より台湾に続く海外展開の第2フェーズとして、香港への店舗展開を開始しました。香港においては、当社ブランドの知名度も高く、効果的なプロモーション活動も奏効し、大変好調なスタートを切ることができました。当期はローリーズファーム3店舗、ジーナシス4店舗のほか、両ブランドにハレを加えたコレクトポイント1店舗の合計8店舗と、計画を上回るペースで出店しました。この結果を踏まえ、来期は中国マーケットへの展開を見据えつつ、戦略的な出店を進めてまいります。



コレクトポイント NEW TOWN PLAZA店

ジーナシス TELFORD PLAZA店

ポイントらしいCSR(企業の社会的責任)活動を推進しています。

企業市民としての責任を果たすため、当社では「等身大のCSR」をテーマに、背伸びをせずに長く続けられるCSR活動を実施しています。

創業の地である水戸を拠点としている水戸室内管弦楽団の活動に協賛しています。

水戸室内管弦楽団は水戸芸術館の専属楽団として、1990年の開館と同時に誕生。現在ウィーン国立歌劇場音楽監督を務める小澤征爾氏が音楽顧問、指揮者としてその運営にあたっています。

【URL】<http://www.arttowernito.or.jp/mco/mcoj.html>



職場体験会を開催しました。

2009年3月に東京本部および川崎地区の店舗にて、聖徳大学附属聖徳中学校の生徒さん40名をお招きして職場体験会を開催し、将来を担う子供たちの職業観、勤労観の育成に役立てていただきました。



2009年2月にプレスルームが主催したサンプルセールの売上金額の一部を寄付しました。

当社が寄付を行った団体

■ ペシャワール会(福岡県福岡市)

【URL】<http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在は、パキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。



■ GOLD RIBBON (財)がんと子供を守る会(東京都台東区)

【URL】<http://www.ccaj-found.or.jp/>

1968年10月、小児ガンで子供を亡くした親たちによって、小児ガンが治る病気になって欲しい、小児ガンの子供を持つ親を支援しよう、という趣旨で設立されました。



■ MAKE-A-WISH of JAPAN(東京都千代田区)

【URL】<http://www.mawj.org/index.html>

「メイク・ア・ウィッシュ」とは、英語で「願いごとをする」という意味のとおり、「難病の子供の夢をかなえる」ことを目的とした国際的なボランティア団体です。



■ 連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 (2009年2月28日現在)	前期 (2008年2月29日現在)
●資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,424	20,895
売掛金	15,814	13,856
有価証券	3,367	2,789
たな卸資産	4,496	—
たな卸資産	3,675	3,496
その他	1,106	799
貸倒引当金	△36	△45
固定資産	17,461	16,817
有形固定資産	2,995	2,983
無形固定資産	448	390
投資その他の資産	14,016	13,443
投資有価証券	2,141	3,145
保証金敷金	8,976	7,961
その他	3,084	2,557
貸倒引当金	△186	△221
資産合計	45,885	37,712
●負債の部		
流動負債		
買掛金	19,173	14,946
短期借入金	10,363	8,960
未払金	3	24
未払法人税等	3,698	2,711
賞与引当金	4,139	2,391
賞与引当金	830	746
その他	138	111
固定負債	146	417
長期借入金	—	3
賞与引当金	—	102
役員賞与引当金	—	134
役員退職慰労引当金	114	114
その他	31	63
負債合計	19,319	15,363
●純資産の部		
株主資本		
資本金	26,704	22,842
資本剰余金	2,660	2,660
資本剰余金	2,517	2,517
利益剰余金	30,203	24,342
自己株式	△8,677	△6,677
評価・換算差額等	△277	△537
新株予約権	66	44
少数株主持分	71	—
純資産合計	26,565	22,349
負債及び純資産合計	45,885	37,712

▶▶▶ たな卸資産
毎期末時点の商品状況に応じて、適切な評価を行っています。

▶▶▶ 保証金敷金
国内店舗数が89店舗増加*したことに伴い、出店時にデベロッパーへ預け入れる保証金敷金が増加しています。
*Eコマース店舗を除く

▶▶▶ 純資産
毎期着実な純資産の積み上げを図っています。



■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 (2008年3月1日～2009年2月28日)	前期 (2007年3月1日～2008年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,650	7,943
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,980	△6,411
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,165	△4,686
現金及び現金同等物に係る換算差額	△50	△5
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	6,453	△3,159
現金及び現金同等物の期首残高	13,849	17,009
現金及び現金同等物の期末残高	20,302	13,849

▶▶▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー
積極的な新規出店・改装に伴う投資を行いました。

▶▶▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー
自己株式の取得と配当金の支払いを行いました。

■ 連結株主資本等変動計算書(要旨) 当期(2008年3月1日～2009年2月28日) (単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	2,660	2,517	24,342	△6,677	22,842	△537	44	—	22,349
当期変動額									
剰余金の配当			△2,228		△2,228	—			△2,228
当期純利益			8,089		8,089	—			8,089
自己株式の取得				△1,999	△1,999	—			△1,999
その他			△0		△0	—			△0
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)					—	260	22	71	354
当期変動額合計	—	—	5,861	△1,999	3,861	260	22	71	4,216
当期末残高	2,660	2,517	30,203	△8,677	26,704	△277	66	71	26,565

■ 連結損益計算書(要旨)

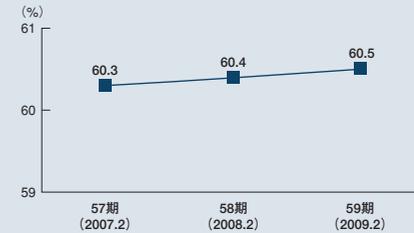
(単位:百万円)

科目	当期 (2008年3月1日～2009年2月28日)	前期 (2007年3月1日～2008年2月29日)
売上高	86,705	73,941
売上原価	34,231	29,244
売上総利益	52,473	44,696
販売費及び一般管理費	36,700	31,736
営業利益	15,772	12,960
営業外収益	234	149
営業外費用	59	78
経常利益	15,947	13,030
特別利益	48	45
特別損失	2,222	487
税金等調整前当期純利益	13,773	12,588
法人税、住民税及び事業税	6,520	4,850
法人税等調整額	△835	249
少数株主損失	1	—
当期純利益	8,089	7,488

▶▶▶ 売上総利益の状況

仕入・在庫等の適切なコントロールにより、売上総利益率は60.5%と引き続き高い水準を維持しています。

■ 売上総利益率



▶▶▶ 特別損失

退店・改装の際に生じる賃借契約解約に伴う損失、固定資産除却損及び減損損失、投資有価証券評価損が発生しました。

退店

店舗戦略の見直しなどにより、個々に十分な検討を行った結果、17店舗の退店を行いました。

改装

当期も、店舗鮮度維持、ブランド価値向上を狙って、39店舗の改装を行いました。

ジーナシス 天王寺店
(2009年2月リニューアル)



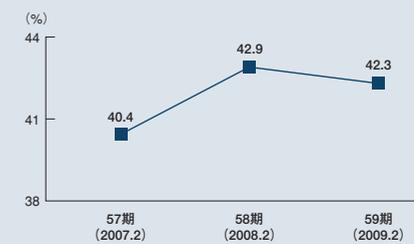
減損損失

一定の基準に基づき、減損損失を計上しています。当期は、1店舗が対象となり2百万円を計上しました。

▶▶▶ 販売費及び一般管理費

WEB媒体を活用した効率的な広告宣伝や出店ベースに合わせた採用・社員登用の実施などコストコントロールを行いました。

■ 販売管理費率

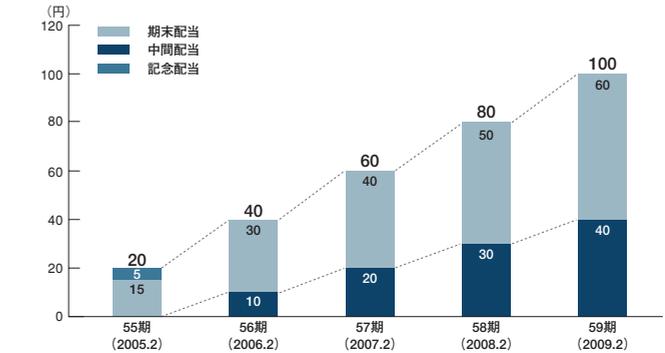


年間20円の増配を実施しました。

当社は、株主の皆様に対する利益配分につきましては、顧客としても満足していただけるよう、魅力あるブランドの開発、商品の提供に必要な事業への投資を行い、一層の企業価値(株主価値)の向上を図っていくことを基本方針としています。配当性向としては、連結ベースで30%を基準に実施してまいります。

当期の期末配当金につきましては、1株当たり50円を予定していましたが、業績が順調に推移したことと、株主の皆様への利益還元を高めるために、1株当たり10円増配の60円とさせていただくことといたしました。中間配当金の1株当たり10円の増配と合わせ、年間配当は1株当たり20円増配の100円となります。年間の連結配当性向は30.4%となりました。

■ 配当金の推移



第60期(2010年2月期)業績の見通し

売上高

970 億円

経常利益

162 億円

純利益

90 億円

店舗数

666 店舗

第60期の主な取り組み

- 成長期ブランドをダウンタウン中心に戦略的に出店します。(「ジーナシス」、「ヘザー」、「アパートバイローリーズ」、「レブシムローリーズファーム」)
- 出店戦略の多様化を図ります。(コレクトポイント・旗艦店・複合店)
- 店頭販売力の強化を図ります。(エリアマネージャーによるOJT・店舗作業の効率化)
- 新ブランド立上げや、中国マーケットへの展開など新しいマーケットの開拓を図ります。
- 社員の処遇改善を反映した報酬制度の充実や積極的な採用など人材投資を行います。

■ 会社概要

会社名	株式会社ポイント		
本部	東京都中央区八重洲二丁目7番2号		
	八重洲三井ビルディング10階		
代表電話	03-3243-6011		
設立	1953年10月		
資本金	2,660百万円		
代表者	代表取締役社長 石井 稔晃		
事業内容	カジュアルウェア専門店チェーン		
事業所	水戸本店	東京本部	国内店舗数 551店舗
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 常陽銀行		
社員数	正社員1,452名		
平均年齢	26.9歳		

■ 取締役・監査役 (2009年5月27日現在)

代表取締役会長	福田 三千男
代表取締役社長	石井 稔晃
取締役専務執行役員	遠藤 洋一
(管理本部・経営企画室・情報システム室担当)	
取締役常務執行役員(営業統括本部長)	櫻井 健一
取締役常務執行役員(社長室長)	時松 克治
取締役執行役員(管理本部長)	松田 毅
取締役相談役	勝山 章廣
取締役	加藤 章
常勤監査役	新名 宏志
監査役	横山 哲郎
監査役	前川 渡
監査役	高橋 惇

※取締役のうち、加藤章は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 ※監査役のうち、新名宏志、横山哲郎、前川渡は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 連結子会社

株式会社ボジック	
資本金	10百万円
当社の議決権比率	100%
主な事業内容	当社取扱商品の物流業務
事業所	水戸物流センター、福岡物流センター、岩間物流センター

■ 波茵特股份有限公司

資本金	10百万台湾ドル
当社の議決権比率	100%
主な事業内容	台湾における衣料販売業務
事業所	台北本部 台湾店舗数 17店舗

■ POINT HOLDING CO.,LTD

資本金	25百万香港ドル
当社の議決権比率	75%
主な事業内容	香港における衣料販売業務
事業所	香港本部 香港店舗数 8店舗

当社のIRサイトでは、株主の皆様、投資家の皆様へのきめ細かな情報提供を目指し、ニュースリリースや売上速報などの迅速な情報開示のほか、動画による説明会様様の配信やIRメールの配信など、多彩なコンテンツを揃えております。IRメールにご登録いただいた方には、随時、当社の決算情報、月次売上概況、プレスリリースなどのIR・企業情報を配信しております。皆様とのコミュニケーションを深める一助としたいと考えておりますので、是非ご活用ください。

ここからIRメール配信の登録ができます。



<http://www.point.co.jp/>



■ 株式の状況

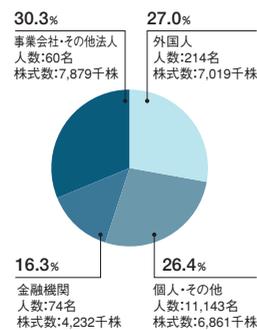
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	25,990,720株
株主数	11,491名

■ 大株主(上位9名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社テツカンパニー	2,174	8.9
株式会社フクゾウ	1,510	6.2
株式会社武平	1,500	6.2
株式会社月岡	1,500	6.2
福田 三千男	1,289	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,194	4.9
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,132	4.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	975	4.0
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	773	3.2

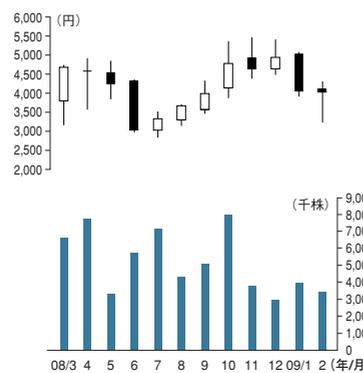
※持株比率は自己株式(1,658,593株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式数分布状況



※金融機関には金融商品取引業者を含みます。

■ 株価・売買高の推移



■ 株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
株主総会	1. 定時株主総会は、毎年5月に開催いたします。 2. 臨時株主総会は、必要あるときに随時開催いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故、その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.point.co.jp/

お知らせ

■ 株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。
- 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は今回から同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

■ 株主優待制度のご案内

当社株式をご所有の株主の皆様へ、全国の当社店舗でご利用可能な商品引換券を贈呈させていただきます。(権利確定日:2月末)

所有株式数	商品引換券贈呈額
10株以上100株未満	2,000円
100株以上1,000株未満	5,000円
1,000株以上5,000株未満	10,000円
5,000株以上	20,000円